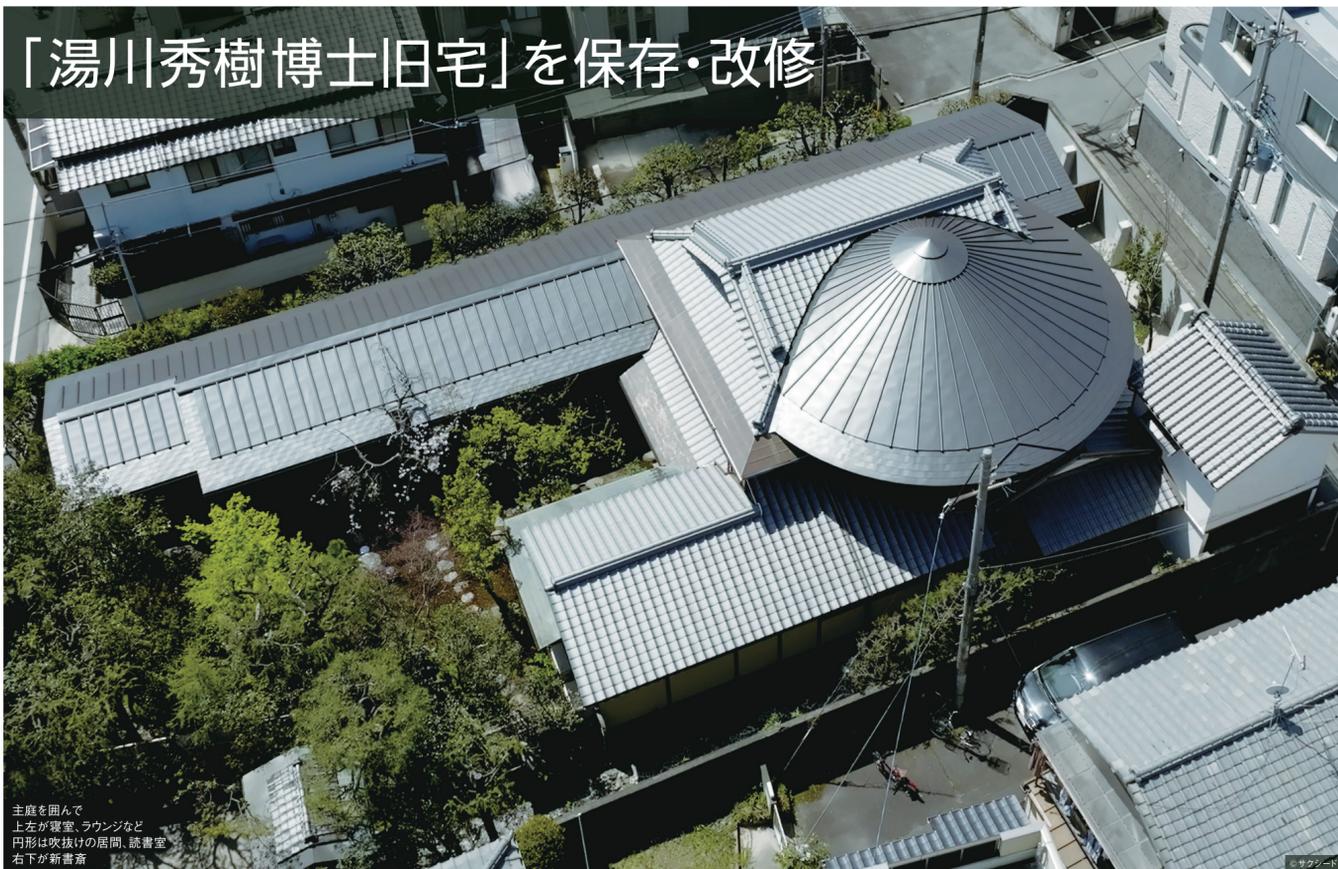


安藤建築で蘇った「京都大学下鴨休影荘」(湯川秀樹博士旧宅)が完成

「湯川秀樹博士旧宅」を保存・改修



主庭を囲んで
左上が寢室、ラウンジなど
円形は吹抜けの居間、読書室
右下が新書斎

安藤忠雄氏(東京大学名誉教授、安藤忠雄建築研究所)設計の「湯川秀樹博士旧宅改修計画」が完成し、5月17日竣工式が行われた。安藤氏は「戦後の荒廃から立ち上がろうとする人びとに、湯川博士は誇りと希望をもたらした。彼の功績を通して日本の将来や科学、技術、芸術の大切さを考え、そのために残せるものは残し、自然との調和を大切にしたい。2、3年経つと草木が成長し、湯川博士が見た風景になる。」と述べた。



安藤忠雄氏

長谷工コーポレーションが全面支援、京都大学へ寄贈

安藤ネットワークにみんなが賛同

「湯川秀樹博士旧宅」は、下鴨神社近くの閑静な住宅地にある。博士は1981年に亡くなるまで、約24年間家族とともにここで過ごした。没後は長男夫妻の住居となり、長男没後の2019年4月には敷地約2,200坪の屋敷に長男湯川由規子さんが一人暮らしだった。由規子さんも高齢ということ、建物の老朽化も激しく(2003年築)、維持管理が難しくなってきたことで京都市に相談。京都市は博士の母である京都大学に所蔵することが望ましいと判断。2020年春、京都市が京都大

学に相談。京大長崎長崎長崎から安藤忠雄氏に話が持ちかけられ、2020年10月、安藤氏は旧知の長谷工コーポレーションの辻範明会長に相談。2020年12月、長谷工コーポレーションが土地建物ごとを買取り、改修後、京大に寄贈することに決めた。2021年9月、京大に土地・建物を移管した。

細田工務店と安井空工務店のつながり

ここで、少し複雑な関係性に触れる。事業主は長谷工コーポレーション。設計監理は安藤忠雄建築研究所、施工は細田工務店と安井空工務店。細田工務店は東京、安井空工務店は京都。細田工務店が元請けで、その協力業者が安井空工務店。なぜそうなのか。細田工務店の小寺俊充氏は、次のように話す。



小寺俊充氏

「弊社は今で77年になるが、グループ入りするより以前に社会住宅を、弊社の設計施工でつづらせていた。その時に、真面目で技術もしっかりしているという評価をいただき、のちに木質系に期待され、長谷工グループに加わった。」

わずか1年の工期

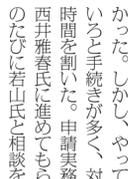
それほど困難を極めた工事だが、驚くべきは工期が1年という短い



ラウンジ内部、左が主庭

旧宅を維持改修し、京大のプライベート空間をつくる

今回の安藤忠雄建築研究所の担当者は、若山泰伸氏である。



若山泰伸氏

「だから工事で着工して1年間はかかっている。当初は更地にしたいという計画案の通りだった。その計画案の見直しもあり、そこからもう一回改修工事しようとして1年くらいかかると、さらに着工して1年と期限付きの工期となった。先述したように、今回の改修工事は博士長男湯川由規子さんが高齢かつ一人で住まわれていて、とても管理が難しい、元気がなくなっているのが背景の発端であり、そこに京大125周年の節目も重なった。工事を完了時期を決めての厳しいスタートとなった。私は最初から3年開けたことになるが、その短期間で施工を請け、見事に仕上げられた安井空工務店には感謝しかない。」

もともと難易度高かった居間とラウンジ、寝室

こうした経緯で、難易度の高い現場をきびきびと、現場所長を担当するのが安井空工務店の中大路靖氏である。普段は工務担当補佐として、若手を指導している。



中大路靖氏

「居間の形状は円形のため、よく高い取まりの精度が要求された。円形は半径4.5m、真ん中に高さ8mの大きな大黒柱。そこから放射状に伸びる筋交いの半縁は本数と間隔を決めるため、いくつもの原寸サンプルをつくって決めていった。そしてその奥に貼る化粧板も半縁の方向にあわせて、すべて柱目で揃えた。また弧を描く障子も、大きな一枚の板から削り出してつづらに美しい天井の円形建築がつけられた。」



若山泰伸氏

「主庭からの風景を残すことを基本にしたが、一部変えたところがある。博士が眺めたであろう主庭の南側に階建ての増築棟があった。今回、そこは低く伸びる平屋とし、テラスを挟んで書庫とプライベート空間にした。座敷からの眺めを残しながら、より奥行きを感じられるようになった。」



主庭側から見る
右が新書斎、正面が座敷、左が寢室など



円形内部
1階は居間、2階は読書室など

京大の要望に応える

京都市の景観条例は全国一に厳しい。「湯川博士旧宅の保存と活用を願う市民の会」などの意見もあった。京都が生んだが国最初のノーベル賞受賞者だから、多くの人が関心をもって、若山氏は「このプロジェクトの意義を考えると、現地再生によって保存活用することができ、構造や防災などの安全性が担保されながら保存部分と時間軸も残し伝えることができた。さらに円形平面も含め新たな部分と一体となって、京大の接連の場としての機能も、旧湯川宅である

円形建築への思い

最後に、もっとも特徴的な円形建築に触れる。若山氏は、次のように述べる。「湯川博士という象徴性と、博士の活動された場であるという求心性の意図をこめた。それは、(知の世帯)のイメージである。」「昭和初期の矩形建物に、幾何学的な魅力を生み出すこと、つまり穏やかな連続性のなかに、新たな歴史の重なりと、さらなる魅力の創出を意図した。」

湯川秀樹×安藤忠雄のコラボレーション

現場は幅員30mほどの道路が三方に面している。こうしたなかでの工事である。周囲の石垣の一部を崩し、そこから重機を入れた。工事完了後、既存の状態に復旧を行った。中大路氏は「湯川博士が昔ながら良いお付き合いをされていたようで、近隣の皆さまのご理解を得て工事は円滑に進められました。周囲の方々も納得してくれました。」「しかし工期1年のうち、ほとんどの建物解体に2カ月、だから正月10カ月だった。その難題を見事に実現したのは、ここに関わった人たちの「湯川秀樹×安藤忠雄のコラボレーション」を、なんとしても実現したいと願った熱い思いである。」

建築概要	
■建物名	湯川秀樹博士旧宅改修計画
■所在地	京都市左京区
■主要用途	大学施設
■所有者	国立大学法人京都大学
■事業主	株式会社長谷工コーポレーション
■設計・監理	安藤忠雄建築研究所
■施工	株式会社細田工務店 株式会社安井空工務店
■敷地面積	745.41㎡
■建築面積	[既存] 300.25㎡ [改修] 268.91㎡
■延床面積	[既存] 435.71㎡ [改修] 358.18㎡
■構造・規模	W造 地上2階
■設計期間	2021年3月～2023年3月
■施工期間	2023年4月～2024年3月



デザイン: CID plus

事業主 **長谷工コーポレーション** HASEKO 東京都港区芝2-32-1 電話 03-3456-5451

設計・監理 **安藤忠雄建築研究所**

施工 **細田工務店** 東京都杉並区阿佐谷南3-35-21 電話 03-3220-1111

安井空工務店 京都府向日市上植野町馬立2-4 電話 075-933-0012